

事例	母語混合クラス
	都内では中国語母語話者、朝鮮・韓国語母語話者、フィリピン語母語話者の混合クラスも多く、すでに漢字を学んできていること、宿題の習慣があるなどの文化的背景など、配慮しながら、子どもたちがお互いに認め合えるような授業を模索しています。

母語混合クラスで指導時に配慮している点

- 中国語母語、朝鮮・韓国語母語の子どもたちが宿題を一生懸命する習慣がついていると文字が速習されやすい
- 保護者も宿題を望んでおり、家庭でも教育熱心な場合が多い
- 中国語母語の子どもが漢字から意味を推測することで理解が早い。
- 非漢字圏の子どもの識字の遅さが理解できないことがある。(馬鹿にした態度を取る子供がいた) 一方で非漢字圏の子どもは発音や会話の発達が早いことが多い

文字指導の時間

読みの時間：発音に気をつけながら、同時に学習

書きの時間：それぞれの子どもの進度に合わせて違うワークシートを使うようにした。

中国語母語話者の子どもも苦手な特殊音のディクテーションは同時に学習することでお互いの刺激になる